

地域公共交通計画の一部修正について

地域における自動運転レベル 4 の実装に向けては、十分な準備が必要であり、短期間で実現できるものではなく、計画的かつ段階的に実施していく必要がある。

令和 7 年度の実証事業では、自動運転サービスに対する社会受容性の向上や社会実装に向けた課題整理を行うとともに、中心市街地における実需に基づく利用実績の確認を通じて、自動運転サービスが地域公共交通の一手段として受け入れられる可能性を確認した。また、検証の結果、中心市街地において社会実装を図ることが、事業性および政策効果の両面から有効であるとの知見が得られた。

これらの成果を踏まえ、令和 8 年度においては、中心市街地活性化との連携を図りながら、レベル 4 自動運転サービスの社会実装を見据えたルートにおいて運行データの蓄積や走行環境条件の整理等を進め、本格導入に向けた基盤形成に取り組むこととしている。

今後、自動運転の実装は持続可能な地域公共交通の確保のみならず、中心市街地の回遊性向上やにぎわい創出など、まちの成長にも寄与することが期待される。このため、レベル 4 自動運転移動サービスの社会実装に向け、レベル 4 実装ルートにおいて令和 9 年度中の走行環境条件付与をめざし、令和 10 年度を目標にレベル 4 自動運転バスの運行を開始するため、地域公共交通計画において、自動運転レベル 4 実現に向けた取組について具体的な追記を行う。

■ 基本方針Ⅴ.最新技術も活用した便利で利用しやすい公共交通

目標⑫	最新技術を活用した運行の効率化に関する研究と検討
目的	・EV 車両、グリーンスローモビリティといった SDG s に対応する車両や、自動運転技術、AI によるデマンド配車システムといった効率的な運行システムを可能とする最新技術について、地域の移動に関する課題を解決するものとなり得るか研究・検討を行うものです。
事業内容	【施策 5-1】 最新技術に関する情報収集と活用可能性の検討（実施者：協議会、交通事業者） ・新技術については、常に情報収集を行い、分科会・協議会の場で積極的に情報共有し、地域の移動に関する課題を解決する持続可能な公共交通体系の構築に向けた検討を続ける。 ・乗務員不足が深刻化する中、レベル4 自動運転移動サービスの社会実装に向け、下図に示すレベル4 実走ルートにおいて、令和9 年度中の走行環境条件付与をめざし、令和10 年度を目標にレベル4 自動運転バスの運行を開始する。 
目標⑬	デジタル化による情報発信強化・利便性向上
目的	・バスロケーションシステムの導入や地図アプリとの連動による公共交通に関する情報へ気軽にアクセスできる状況や、キャッシュレス決済により便利に利用できる状況を整備することで公共交通の利便性向上を図るものです。
事業内容	【施策 5-2】 GTFS データ整備・更新とオープンデータとしての公開、バスロケーションシステムの導入（実施者：交通事業者） ・GTFS データを整備・更新し、オープンデータとして公開することで、運行情報を多様なデジタル媒体で活用できるデータとする。 ・GTFS データの整備とともにバスロケーションシステムを導入することで、デジタルサイネージ等を活用したバス待ち時間の表示等に活用 【施策 5-3】 キャッシュレス決済の導入（実施者：交通事業者、坂出市） ※利便増進事業 ・IC カード決済や QR コード決済等の両替や小銭のいらない利用しやすい決済方法の導入を検討 ・キャッシュレス決済を利用した乗り継ぎ割引等を検討

ページ・位置	旧 R 7. 7改訂時	新 R 8. 7改訂時
P 101 ・ 【施策5-1】	・乗務員不足が深刻化する中で、自動運転レベル4による運行を目指して実証運行に取り組む。	・乗務員不足が深刻化する中、レベル4自動運転移動サービスの社会実装に向け、下図に示すレベル4実装ルートにおいて、令和9年度中の走行環境条件付与をめざし、令和10年度を目標にレベル4自動運転バスの運行を開始する。 